

3月13日(土)、中学校3年生13名の卒業式が挙行されました。新たに竣工された中学校校舎(4号館)の「協創ホール」を全校に先駆けて使用しました。3年間、様々なことがありましたが、遅しく、団結力のある生徒たちでした。数多の思い出を胸に、次の学びに向かって巣立っていきました。ここが出発点。ここから、また頑張っていきましょう。(以下は、式辞全文)

想いを信念に高める

桜の開花が告げられ、穏やかな春が訪れました。今日のこの良き日、卒業証書授与式を挙げていきますことは、誠に喜ばしい限りです。13名の卒業生のみなさん、卒業、おめでとう。みなさんは中学校3年間の学修を積み、一步、自立の歩みを進めました。

保護者のみなさま、ご息女のご卒業、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。また、この3年間、本校の教育にご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。ご来賓のみなさま、ご多用の中をご臨席いただきまして誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

卒業生のみなさん、3年間はどうのような中学校生活だったでしょうか。「鈴峯」から「協創」へ、校名が変わり、女子校から共学校へと変わり、校舎が変わりと、大きな変革の時を過ごしました。さらにこの1年間はコロナ禍という、これまで前例のない状況下、休校措置、部活動の制限、学校行事の縮小や中止など、交流機会を失うことが相次ぎました。加えて、教室配置には不便をかけてしまいました。振り返ってみるとやや慌ただしく3年間が過ぎましたが、13人のまとまりは遅しくもあり、誇らしくもあったのではないのでしょうか。

さて、時代は、多様性、不確実性に富み、将来を予測することが困難なときを迎えています。こうした時代や環境の変化にあっても、社会の担い手、幸福な人生の創り手として道を切り拓いてください。そのためには、どんなことが求められるのでしょうか。

1つは、みなさんが入学した頃、折に触れて話していたことです。担任の木坂先生が教室の掲示板に掲げていたものです。それは、「時間を守る。挨拶をする。友だちを大切にすることです。基本的なことですが、なかなか自分事になりません。習慣として身につけ、継続できれば、人として素晴らしいことです。間違いなく生きる力



となります。継続は力となるのです。

2つ目は、「謙虚であれ」ということです。私たちは、時代や環境がいかに移ろうとも、常に人との関係性の中で生きていかざるを得ません。私たちは、人との出会い、人との「ご縁」によって生きるすべを見出していきます。そのとき、謙虚さがなければ心は動かされません。次に向かう学びを広げることはできません。何を知らず何を知るべきか、何を為せず何を為すべきか。やがて、その謙虚さは利他の心を育みます。人としての大切な軸となるのです。

そして、3つ目は、「想いを込める」ということです。人は誰でも、「こうしたい」という欲求を持っています。しかし、単なる欲求だけでは願いは通じません、叶いません。「何とか成し遂げたい」という強烈な想いを持つことで、信念にまで高めなければなりません。「想いあるところに道あり」です。想いを込めること、それは、願いが実現に向かうことなのです。以上の3つのことを、自戒の念を込めて、みなさんに心掛けて欲しいと願っています。

「ご縁」をいただいたことに謙虚に報い、その人との「ご縁」に感謝の念を決して忘れない。さらに、感謝の想いを込めた実践を日々継続していく。まさしく、本校の建学の精神である「報恩感謝・実践」そのものが、多様で不確実な時代に通ずる生き方なのだと確信します。

みなさんは、4月には高等学校へ進み、さらに学びを深め、数年先には上級学校などを経て、社会人へと歩みを進めていきます。笑顔で、謙虚な立ち居振る舞いを忘れず、「あなたと出会ってよかった」と思われる人になるように、更に成長し続けてください。

鈴峯女子の制服は、今日で見納めです。名残り惜しさは尽きませんが、13名の前途が輝きに満ち溢れんことを願って、式辞とします。